

(一社) 日本色彩学会東海支部 2018 年度講習会報告

「色彩心理学研究の実践例 -テーマの設定、実験計画、論文作成までの実際-」

講師：中村 信次 先生 (日本福祉大学全学教育センター教授)

日時：2019 年 1 月 26 日 (土) 13:30~15:30

場所：椙山女学園大学文化情報学部メディア棟 B009 会議室兼多目的室

参加者数：24 名

2019 年 1 月 26 日、中村信次先生による講習会「色彩心理学研究の実践例 -テーマの設定、実験計画、論文作成までの実際-」が開催されました。

今回の講習会は、研究の着想から研究計画の立案、実験・調査の準備と実施、そして論文執筆までの「研究の実際」について学ぶ、これから論文作成を考える研究者にとって大変興味深い内容でした。

まずは研究アイデアの着想について、先生からお話ししていただきました。アイデアは様々なところに存在しているが、重要なのはこのアイデアをいかに科学的な研究目的に発展させるかということで、研究の動機と研究の目的は別物であることをわかりやすくご説明いただき、曖昧になりがちなところをしっかりと認識できました。また、先行研究の精査の重要性について、「必ず先行研究を検索し、それらをしっかりと読み込み必要な知識や研究手法を学ぶことは、論文作成にとって何より大切なことである。」と教えていただきました。

そうした心理学研究への心構えの話の後、様々な調査手法やその特徴と問題点などについても説明していただきました。研究の具体的な事例を交えながら、研究の「科学性」の大切さと科学と文学・芸術との違いについてご教授いただき、受講者は皆、熱心に話に聞き入っていました。

その後、研究計画立案と実験・調査の準備と実施のために、再度、先行研究論文をたくさん読むことの重要性を説かれた後、論文発表までの道のりについてお話ししていただきました。論文にはルールがあり、約束事を守るのがポイントであることや査読への心構え等の話に、実際に論文作成に取り組んでみたいと思っている参加者たちは深く頷いていました。

最後に、研究を遂行し論文を作り上げること、そしてそれを継続していくことの大切さを先生に熱く語っていただき、若き未来の研究者である受講者の瞳が輝くのが印象的な講習会でした。私自身も今まで論文について不分明であったことが、中村先生のご教授により明瞭化し、大変勉強になりました。

(多田真奈美)